

会議録

会議の名称	平成30年度第3回史跡津軽氏城跡堀越城跡整備指導委員会
開催年月日	平成31年2月21日(木)
開始・終了時刻	午後2時から午後4時まで
開催場所	弘前市岩木庁舎2階 会議室3
議長等の氏名	委員長 関根達人
出席者	<p>【専門部会委員】 委員長 関根達人 委員 小林敬一 委員 福井敏隆</p> <p>【行政部会委員】 堀越町会長 棟方功 建設政策課長 本間嘉章 公園緑地課長 神雅昭(代理出席:古川室長) 観光政策課長 後藤千登世(代理出席:吹田主事) 都市政策課長 天内隆範(代理出席:宮本主幹兼計画係長)</p> <p>【オブザーバー】 県教育委員会文化財保護課埋蔵文化財グループ 葛城主幹</p>
欠席者	<p>【専門部会委員】 委員 大野敏</p> <p>【行政部会委員】 企画課長 濵谷明伸 財務政策課長 岩崎文彦</p>
事務局職員の職氏名	<p>教育長 吉田健 文化財課課長 成田正彦 同課主幹兼埋蔵文化財係長 岩井浩介 同課主事 赤石茜 同課主事 佐藤信輔 同課技師 工藤雅人 建設政策課 高野技師 株式会社創宇舎 古川代表・古川研究員</p>
会議の議題	(1) 史跡ガイダンス施設(旧石戸谷家住宅)における展示計画について (2) その他
会議結果	別添議事録のとおり
会議資料の名称	

会議内容 (発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)	別添議事録のとおり
---	-----------

【会議内容要旨】

議題（1）史跡ガイダンス施設（旧石戸谷家住宅）における展示設計について

- 事務局 : 旧石戸谷家住宅における展示設計については大きな変更は無い。展示工事は、国庫補助事業で実施するが、補助については厳しい査定となっている。堀越城跡整備事業は史跡津軽氏城跡として弘前城跡石垣修理事業とセットの事業となっている。三之丸の整備工事は発注が難しくなるため、事務局内で整理している。
- ジョラマについては、これまで示した方針通り作成する方向。ウマヤでのパネル展示については、方針に変更はないが、グラフィックについては数を減らさざるを得ない状況。映像展示は作成する方向で構成を組んでいる。大きな変更点としては、ミニシアターの費用がかかるため、再考せざるを得ない状況。空いたスペースには「友成」を展示し、併せてミニ企画展示を検討している。
- 実施設計について、エントランスホール左手にジョラマを作る。ニワは、ワクスベースと映像展示を行う。補助事業は、年度途中での増額要求をすることもでき、それが通ることもある。早めに文化庁と協議をし、工種の変更でサブ映像の接地などを検討したい。
- 福井委員 : 友成について確認したい。レプリカを作成するのは抑えだけか。
- 事務局 : その通り。
- 福井委員 : 太刀台についてはどうするのか。
- 事務局 : 台は別途に作成し、レプリカの対象とはならない。
- 福井委員 : 展示ケースの大きさは30cm四方で大丈夫か。
- 事務局 : レプリカをなるべく近くで見てももらうためにこのようにしている。
- 福井委員 : のぼりは触らせるのか。
- 事務局 : つるして展示することとなる。触らないように注意喚起の札を置くなどの対応が考えられる。
- 関根委員長 : 友成のレプリカは、刀身は見せるのか。
- 事務局 : 写真などで示したい。
- 小林委員 : 感想としては、真面目なことをしているという印象を持った。遊び心があつても良いのではないかと思う。各ブースは音は出ないのか。

- 事務局 : 基本的にそうなる。
- 小林委員 : 五感を刺激するものがいい。触ることができるるものや五感を刺激するものがあつても良い。今は、きちんとしたものを作り上げる整備だろうが、堅いものは見るのが疲れる。興味を引いていくプロセスが必要。案内人といった人を置くようになると思われるが、案内人が話を組み立てていくことに期待したい。また、オーバーレイのようなものがあつても良い。1ベースにサブテーマを設けて、物産や五感を刺激するものを置いてはどうか。さらに、リアクティブな面が欲しい。ジオラマは対象者との間に距離があり、再検討があつても良い。視点を変えられることにジオラマは面白さがある。モデルスコープで写真を撮って見せるなど、状況の変化が欲しい。人が増えてきたら、ちょっとした工夫をしてほしい。将来の活用の可能性をみて予算要求をしてもらえばと思う。遊び心のひとつとしてはジオラマに馬がいても良いのではないか。
- 関根委員長 : 小林委員から大きな要求を頂いた。どこかで反映をしてもらえばと思う。ジオラマについて、例えば弘前城ではプロジェクトマッピングを使っているが、これは出来ないのか。
- 事務局 : 予算的に難しい。
- 関根委員長 : 例えば発掘で1つ、整理で1つ、模型で1つとジオラマの中で動きがあった方が良いのではないか。
- 事務局 : ジオラマには人物配置ができるところは示したい。各段階のジオラマをつくることは実現が難しい。過去の状況、調査風景をジオラマ1つの中で混ぜ込むことはどうだろうか。調査をしていない空間部分などに使えないか。
- 関根委員長 : どこかで小林委員の意見を参考に工夫をしてほしい。町会からは何かないか。
- 棟方委員 : 防犯カメラなどはどうするのか。
- 事務局 : カメラと機械警備については設備と業務委託で整備したい。エントランスエリアとアンダーパスにはカメラを設置し、旧石戸谷家の事務室で見られるようにしたい。
- 棟方委員 : 熊野宮との共生はどうするのか。また、堀に水が溜まり、夏には臭いがする。
- 事務局 : 熊野宮については町会にお願いできればと思っている。堀については、想定より溜まっている。浸透しにくくなっているようだ。臭いについては事務局でも把握している。水のポンプアップなど手はあるかと思うが、基本は浸透すると思っている。今後も状況を見ていきたい。町会の皆さんには、日頃から近くで状況を見て

いると思うので、色々とご意見をもらえばと思う。

公園緑地課：展示は全てデジタルよりはアナログなものがいた方が良い。子供にデジタルは人気。触って楽しむのは選択肢の1つとしてはあるが、故障もある。

関根委員長：メンテナスにコストはかかるのか。

事務局：更新や維持管理の費用はこれからになる。

小林委員：旧石戸谷家自体の防犯はどうなっているのか。

事務局：体制を構築する。

小林委員：熊野宮での祭りのときはどうしているのか。

事務局：宵宮の時は外灯の時間を延ばしている。のぼりの場所も整備している。

小林委員：今まで以上に盛り上がるようにしてほしい。

事務局：宵宮と連携したいとはこれまで話しているが、もう一つの大きな宵宮に行っている。連携出来ればと思う。

関根委員長：日程は毎年決まっているのか。

棟方委員：7月14日に開催している。

関根委員長：堀越城と市のイベントを合わせることができればよい。

議題（2）その他

事務局より、史跡堀越城跡整備事業についての報告や進捗状況について説明。

- ① 本丸地区
- ② 二之丸地区
- ③ 三之丸地区
- ④ 外構地区
- ⑤ 管理活用支援エリア
- ⑥ エントランスエリア

関根委員長：土壟の草刈りについて、企業に依頼しているとのことだが、弘前城はどのようにしているのか。

公園緑地課　：刈り払い機を使用して、年3回直営で実施している。

関根委員長　：当時はどのように土壌を管理していたのだろうか。

事務局　　：天端のみを刈っていたのではないだろうか。

関根委員長　：1か所だけ刈らないでおくとどうなるか見てみたい。

事務局　　：刈らないと結構な速さで伸び、簡単に登れるようになってしまう。特に二之丸、三之丸は伸びるスピードが速い。

関根委員長　：旧石戸谷家の庭についてだが、当初の庭はどのような状況だったのか。

事務局　　：当初の庭は既に荒廃していた。石戸谷家の価値を考えた時、大石武学流庭園は新しい価値になる。現在、庭園の調査により成果が見えてきたところであり、時期的な流れもある。

関根委員長　：庭 자체を維持管理することにコストをかけられるのか。

事務局　　：日本庭園を整備することには意義ある。瑞楽園のような規模にはならない。

関根委員長　：堀越城とはあまり関係ないものであり、あまり維持管理にコストがかからないようにしてほしい。

福井委員　：石がなくても雰囲気は分かる。あっても違和感がないのではないだろうか。
ガイドについては、2019年度中に育成できるのか。

事務局　　：まずは直営でやっていきたい。ガイドは募集をかけてやっていく方向。既にやりたいと言っている協議会関係の人もいる。

福井委員　：弘前城のガイドとの協力はするのか。

事務局　　：なかなか難しい。ただし、弘前城のガイドも堀越城は見ていると思うので、うまく連携できればと考えている。

関根委員長　：七戸町では、町の非常勤職員としてガイドを雇うつもりだと相談を受けた。弘前市としてトータルとして考えたほうが良い。

事務局　　：第一義的にはまず地元の人たちにお願いしたい。

関根委員長：いろんなニーズがある。堀越城はマニアックな城。松前町の福山城は、協会とは別に議員がガイドをしている。

小林委員：いろんな形でやってもらえばよい。裾野を広げるにはどうすればよいか。ゆるやかな組織が生まれるようにしてほしい。堀越城は国道7号に接しており、一般の人も十分目にする。柔軟に仕組みを作ってほしい。

関根委員長：他にないか。県の葛城主幹からはどうか。

葛城主幹：国の補助はシーリングがかかっている。増額要求は上げて欲しいと国から言われている。

関根委員長：それではこれで委員会を終了する。